

# 道徳通信


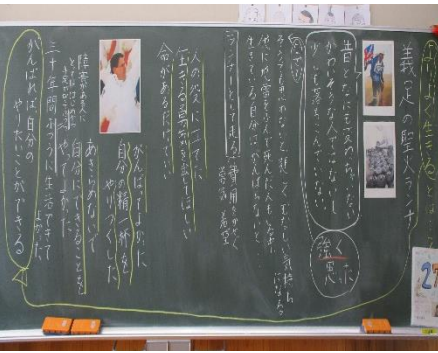
3学期号



## ふじみ野市立駒西小学校

3学期はまとめの時期です。今までの学習を通して、子どもたちの意見も活発になっていき、より深く考える様子が見られました。各学年の取り組みを紹介させていただきます。道徳でどんなことを考えているのか、ご家庭での話題にしてくだされれば幸いです。

	主題名	正直・誠実	題材名	あのね
	ねらい	嘘をついたりごまかしたりせず、素直でのびのびと生活する態度を育てる。		
	授業の様子（1年）	<p>ごまかしたり嘘をついたりすると心がちくちくと痛くなることについて考え、こころが不健康になるということに気付くことができました。そのことから、嘘をつかないで、正直で素直な心で過ごしていきたいという気持ちが児童の意見から出てきました。</p>		
	主題名	わがままをしないで	題材名	わがままな 大男
	ねらい	わがままをしないで生活しようとする判断力を育てる。		
	授業の様子（2年）	<p>自分の庭だから使わせないと、壁を作る大男の気持ちを追いながら、「わがままに気付いた大男の気持ち」を考えました。</p> <p>児童からは、「庭の独り占めはよくない」「みんなが使ってくると楽しい」などの考えが発表されました。</p> <p>わがままのない生活は、楽しいものになるということに気付くことができました。</p>		
	主題名	自分らしさ	題材名	じゃがいもの歌
	ねらい	自分の良さを知り、伸ばしていこうとする心情を育てる。		
	授業の様子（3年）	<p>カレーを作ることになり、母から頼まれたじゃがいもを物置に取りに行った主人公。じゃがいもを見ているうちにクラスの友達顔と重なって見え、普段威張っているあの子どもも優しい一面があることに気づきます。じゃがいもを見ながらつい歌を口ずさむ主人公の姿を想像し、友達や自分のいいところについて考えました。</p> <p>児童からは、「誰にでもいいところがある。」「みんなが同じじゃなくてもいい。」「自分にはどんないいところがあるのかな。」などの考えが出されました。</p> <p>ふり返りで「自分の良さ」をたくさん書くことができました。</p>		

	<b>主題名</b> 目標に向かって	<b>題材名</b> 花丸手帳 水泳・池江璃花子選手
	<b>主題名</b> 自分のよさを伸ばす	<b>題材名</b> 感動したこと、それが僕の作品～パブロ・ピカソ
	<b>主題名</b> より良く生きる喜び	<b>題材名</b> 義足のランナー
	<b>主題名</b> しょうじきなところで	<b>題材名</b> どんぐり
<b>ねらい</b> 自分で決めた目標の実現を目指して、強い心を持ち、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。	<b>ねらい</b> 主人公の作品作りにかかる思いについて考える活動を通して自分の特徴を知り、短所を改め長所を伸ばそうとする態度を育てる。	<b>ねらい</b> 人間には弱さと、それを乗り越えようとする強さや気高さがあることを理解し、人間として生きる喜びを感じ、よりよく生きようとする心情を育てる。
<b>授業の様子（4年）</b> 自分で決めた目標を実現するために「手帳」を工夫していた池江選手。毎年目標を手帳に書き込み、達成できたら花丸をつけていました。なかなか目標が達成できない池江選手の心情を想像し、目標の実現にはどのような気持が大切かについて考えました。児童からは、「何度も何度も失敗してもあきらめない心が大切だと思う。」「失敗してもめげずに頑張ること。」などの発表がありました。	<b>授業の様子（5年）</b> パブロ・ピカソの生涯について知り、作品作りにかかる情熱について考える活動を通して「自分のよさを伸ばす」とはどういうことかを考えました。 ピカソは「周りからどのように思われても自分が素晴らしいと感じたものを表現し続けたい。」という考えから、自分のよさを伸ばすには、「自分を信じて努力すること」や「努力をし続けることが大切」など考えたことを発表していました。	<b>授業の様子（6年）</b> 地雷によって義足となったクリス・ムーンが聖火ランナーとなるまでの生き方を知り、クリス・ムーンの思いについて考える活動を通して、「より良く生きること」について考えました。児童からは「どんなことが起こっても前向きに考えていきたい。」「嫌なことがあっても、それを踏み台にすれば必ずいいことがある。」「あきらめずに限界までやり尽くせば後悔なく生きることができる。」などの発表がありました。
<b>ねらい</b> うそをついたりごまかしたりしないで、明るい心で生活しようとする態度を養う。	<b>授業の様子（こすもす）</b> 下校時に公園で遊んでしまい、帰宅が遅くなってしまった主人公がお母さんにうそをついてしまうという失敗談から、どうすべきだったか、なぜそうできなかったかを考え、話し合いました。 児童からは、「うそはダメ。」「正直に言えばいい。」「うそをつくると嫌な気持ちになる。」などの発表がありました。	

